

Casestudy3

悩み抜いたペットボトル削減の答えは 快適性と高品質を両立する ウォーターサーバーの設置に

GOOD NATURE HOTEL KYOTO × ウォータースタンド(株)



『GOOD NATURE HOTEL KYOTO』
総支配人
松井美佐子氏

ゲストからの意見で進んだ
ペットボトルの客室設置

「GOOD NATURE HOTEL KYOTO」は2019年の開業当時から、ホテルが入る複合型商業施設「GOOD NATURE STATION」全体で、プラスチック削減を含めた環境負荷低減の取り組みを行なっている。その指針となっているのは、「5 GOOD (GOOD for Health/GOOD for Minds/GOOD for Locals/GOOD for Social/GOOD for Earth)」と呼ばれる選択基準だ。

例えば客室では、ハブラシなど使い捨

「人にも、自然にも、いいものを。」というコンセプトを、ホテルが入る複合型商業施設「GOOD NATURE STATION」と共に徹底追及する京都・四条河原町の「GOOD NATURE HOTEL KYOTO」。そのストイックなまでの環境配慮で注目される同ホテルは8月、ペットボトルの削減と快適な旅の滞在を目的に、ウォータースタンド(株)のウォーターサーバーを設置した。ここでは、その設置理由や付加価値、今後の脱プラスチックに向けた取り組みについて、総支配人の松井美佐子氏に聞く。

てアメニティの設置を廃止し、現在は希望者だけに配布。バスルームに設置するバスアメニティは、100%天然由来成分のシリーズを、開業に際して独自に開発。容器には、環境に配慮したバイオマスポリエチレンを使用している。ホテル以外でも、1階のマーケットで販売する食品には、紙製のテイクアウト容器、やバイオマスプラスチック製カトラリーを使用し、全館から出る生ゴミは館内に設置したコンポストで堆肥にして田畑に循環させるなど、その取り組みは徹底したものだ。

これらの姿勢が評価され、同ホテルは2020年8月、環境や健康に配慮した建物が認定される「WELL 認証(v1)」を世界のホテルで初めて取得する快挙を成し遂げている。だがその一方で、客室に設置するペットボトルの水については、ずっと協議の種だったという。

アルミや紙容器に変える選択肢もあるが、

配送時に凹みやすく、結局廃棄につながってしまう。設置しなければ、ゲストが外で購入することになり、快適性も損なう。非常に難しい問題だが、これをあきらめず協議し続けた背景には、ゲストからの声があった。

「われわれの環境問題への取り組みを期待して来られたお客さまから、『客室にペットボトルがあったことが残念』という口コミやご意見を何度もいただいたんです。もちろんプラ削減は1日も早く手を打ちたいと思ってきましたが、ゲストの声が後押しとなり『これは本当になんとかしたい』と動きが加速しました」と



客室のミニバーに設置されたオリジナルタンブラーとペットボトルの水。その手前には、プラスチック削減への取り組みと、ウォーターサーバーについての説明書きを配置

松井氏は振り返る。

運用のシンプルさと使いやすさが決め手に

そんな悩みの先に出会ったのが、ウォータースタンド(株)のウォーターサーバー「ウォータースタンド」だ。これを各フロアに設置し、客室にタンブラーを設置することで、お客さまが24時間自由に水を汲み、外出時にも持ち歩ける環境を整えたのだ。

「ウォータースタンド」を選んだ理由について、松井氏はこう語る。

「水道栓直結型で、水道さえあれば設置できるという運用のシンプルさが一番の魅力でした。また、温度が冷水、常温水、温水と3段階から選べる上に、ボタンタッチでお客さまに使っていただきやすいのも大きなポイントでしたね」

加えて、一般的なウォーターサーバーは水を購入する形になるが、『ウォータースタンド』は、水道水が高機能浄水フィルターを通して安全でおいしい水に変わるスタイル。2種のフィルターを通すことで、ナノレベルのろ過がなされ、ウイルスや微生物、重金属やヨウ素、セシウムなど不純物を99.8%取り除いてくれる。だから安全性が高く、経費的にもメリットが大きいのだ。「今はまだ、客室にペットボトルの水も設置して、お客さまに選んでいただく形をとっていますので、利便性から持ち帰る方や、追加注文される方もいます。館内でヨガなどのアクティビティを行なっており、そこで差し上げることもありますので、大幅なプラスチック削減、経費削減にはつながっていませんが、1室あたりの使用量は少しずつ確実に減ってきています。1年後にはかなり変化が出るのではないのでしょうか」と松井氏は期待を寄せる。さらに、大きな成果として、「環境に配慮されていてすごく心地良かつ



各階エレベーターから客室への動線にある給水ステーション。「ウォータースタンド」の横には製氷機も置かれている



ゲストからは「ボタン式で分かりやすく、熱湯もすぐに出る」と好評

た」、「ウォーターサーバーがあっという間だった」など、環境に関するプラスの口コミが増えてきたという。つまり、ウォーターサーバーがサステナブルな姿勢を示す大きな要因を担ったのだ。

同時に、ウォーターサーバーは従業員の意識にも変革をもたらした。実は導入時、事務所と休憩室にもウォーターサーバーが設置され、全従業員にオリジナルロゴ入りタンブラーが配られた。すると、ほとんどの従業員が出勤時「マイタンブラー」に給水するようになったのだ。

「この意識の変化は非常に大きいと感じています。しかも、ナノレベルのろ過をされているからか、お水がまるやかでおいしいんです。コーヒーも、この水で淹れると全然味が変わると評判です」と松井氏は笑顔を浮かべた。

今後については、4月の「プラスチック資源循環促進法」(施工)に向けて、現在希望者だけに渡しているコームやシェーバーの見直しも検討中。さらなる脱プラスチックを目指す考えだ。また、利便性の高い立地ゆえの悩みについて

も明かした。

「当ホテルの1階にはナチュラルワインや自然食の総菜・弁当を販売するマーケット、オリジナルスイーツを販売するパティスリー等があり、隣接する高島屋京都店にも直結しています。そちらで食べ物を購入して、お部屋でゆっくりホカンスを楽しまれるお客さまが多いんです。しかし、それに伴って持ち込まれるゴミもかなり多く、課題になっています。これらをどう減らしていくかを、お客さまや行政とも一緒に考えていきたいですね」。

現在地方自治体によっては、観光地に給水ステーションを設置する動きも出てきている。そうやって地域ぐるみで変わっていければ、さまざまな新しい解決策が生まれてくるに違いない。ホテルの快適性、クオリティを保ちながらの脱プラの挑戦に、今後も注目したい。

GOOD NATURE HOTEL KYOTO

〒600-8022 京都市下京区河原町通四条下
ル2丁目稲荷町318-6
☎075-352-6730
<https://goodnaturehotel.jp/>